

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23 年 8 月 29 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200015		
法人名	医療法人社団林医院		
事業所名	グループホーム若紫の家		
所在地	広島市西区己斐中3丁目53-14 (電話) 082-2272-2111		
自己評価作成日	平成23年8月29日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3490200015&SCD=320
------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成23年9月21日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>家庭的で落ち着いた雰囲気を大切にしており、入居者様一人ひとりが穏やかに、その人らしい生活ができるように支援しております。町内会では副会長や組長を経験し、子ども110番を設置したり、地域行事への参加を積極的に行っております。居室からは外の日差しが入り、とても明るく開放的です。また、管理栄養士の指導をもとに栄養バランスの良い手作りの食事を皆様に提供しており、入居者様はおいしそうに召し上がっておられます。医師による週3回の回診や看護師も配置しており、心も体も快適で安心した生活を送ることが出来ます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>1 当該事業所は、JR西広島駅近傍にあり交通アクセスも良く外出支援・面会等に適している。また、医療法人社団の一施設として介護・医療管理が一体となっており、利用者及び家族に安心感を与えている。</p> <p>2 閑静な住宅街の中にあって地区の自治会役員や「子ども110番」の家に指定されるなど、地域に貢献しつつ各種行事に積極的に参加するなど地域との交流を促進して、地域密着型施設としての役割を担いつつある。</p> <p>3 職員は、平均的に若く明朗闊達に利用者本位のサービスに努めており、家庭的な雰囲気の下「笑顔を大切に」の理念を実践しつつある。</p> <p>4 施設内は掃除が行き届いて清潔感があり、室内の装飾等も落ち着いた雰囲気を醸し出しており、利用者も穏やかな雰囲気で生活されている様子が伺える。</p>

自己評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人全体の理念があり、事業所で働く職員一人ひとりが事業所の理念を理解出来るよう毎朝の申し送り時に全員で読み上げ意識を高めている。また、事業所独自の理念を作り、目標を持って取り組んでいる。	医療法人社団の全体理念があるが、より実務的・実践的な理念として事業所独自の理念「笑顔を大切に」を掲げて日常の業務に当たっており、管理者を中心に理念を実践することの大切さを共有して、利用者本位のサービスへつなげて、活かしている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域住民の一員として子供110番を設置し、町内の行事に積極的に参加したり、散歩時には地域の人たちと挨拶を交わし馴染みの関係が築けている。	事業所として町内会に加入したり「子ども110番の家」を引き受けたりと積極的に地域とのつながりを強化し、地域の理解を深めるよう努めている。利用者も地域の一員として地域の一斉清掃に参加したり、夏祭り・秋祭りに家族とともに参加するなど、地域に溶け込み地域住民の方々との交流を促進して、地域とのつながりを深めている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	職員は勉強会を開き、認知症高齢者に対して地域の方々の理解を促し、入居されている方だけでなく地域の方にも声かけをして安心して頂けるよう努めている。地域の方から認知症に関する相談が少しずつ出てきた。	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議や施設内行事への家族や地域の人々の参加を促し、広く意見を聞き、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けたいけるよう支援している。報告や情報のみに留まらず、話し合いを通じて率直な意見を貰い、サービス向上に具体的に生かしていくことで改善への取り組みを行っている。	運営推進会議は利用者家族等の参加を得て、定期的に開催され、事業所からの連絡・行事報告などを主体に実施されている。家族等の要望や質疑も一部あるが、会議事録からはあまり活発さは伺えない。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事業所は介護保険事業者指導係や区役所の介護保険担当者などに運営や現場の苦情を積極的に伝える為に、入居者の介護保険の手続きやケアの問題・記録等を話し合い情報を共有しながら共に取り組んでいる。	連携を密にする直接的な事例が少ないため、疎遠に成りがちであるが、介護保険事業者指導や介護保険手続き時には積極的に指導を受けたり、相談等を持ちかけて意志の疎通を図り、接点を保てるよう努力している。
				運営推進会議参加者に地域行政担当者や地域住民代表者など部外者の参加が無く、利用者家族のみの参加で固定的参加者となっている。行政担当者や地域の代表者等はお誘いしても多忙なため参加が得られにくいとしても極力予定を調整して、出来るだけ多くの幅広い方々の参加を得て有意義な会議をもてるように改善できれば、より質の高いサービスに向けた業務が期待できます。

自己評価	項目	自己評価	外部評価		
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束によって利用者に与える身体的、精神的苦痛を職員全員が理解している。見守り方法を徹底し、外出しそうな様子が見られたら、制止するのではなくさりげなく声をかけたり、一緒について行くなど安全面に配慮して鍵をかけずに自然な暮らしを支援している。また、SECOMを導入しており、目の届かない場所でも察知できるようにしている。</p>	<p>身体拘束についての真の意味を職員はよく理解しており、見守り・声掛け主体のケアの中で精神的な拘束を含め無意識にでも利用者に拘束感を与えていないかの反省や相互チェックをするなどしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止について勉強会やミーティングを実施し、職員全員で早期発見・防止を徹底している。管理者は職員の疲労、ストレスの軽減に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>対応が必要と思われる利用者がある場合は、随時、職員に制度の説明をしたり、勉強会を開いている。機会があれば外部研修に参加し、利用者の支援に結び付けている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居前には内部見学をして頂き、全体的様子を見て頂いている。特に利用料金やリスク、重度化、看取りについての対応方針などについては、時間をかけて詳しく説明をし、同意を得るようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>相談窓口を設置しており、ご家族には毎月の手紙や訪問時、利用者には日頃のコミュニケーションの中で意見や要望を集め、職員全体で把握、早期対処に努めている。意見や要望は随時、管理者・職員の対応策と共に提示し、運営へ反映している。</p>	<p>利用者家族からの意見・要望・苦情等は面談・手紙・電話などにより常時受け付けしており、その都度連絡帳に記載し管理者・職員が閲覧している。これらの対応は主として管理者が当たり、対応策を含め職員にも徹底した後に相手家族に報告し了解を求めている。</p>	

自己評価	項目	自己評価	外部評価		
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。また、ミーティングや勉強会で発表の場を設け、職員の意見を聞くようにしている。管理を通じて代表者へ随時報告がなされ、運営に関する事項について意思決定がなされている。</p>	<p>管理者と職員間でも、相互に気軽に意見交換が出来るような風通しの良い関係ができてきているので、意見や提案事項などもその都度意志の疎通ができる。管理者で対応可能なことは、職員に徹底し業務に反映させ、管理者権限を越えるものについては、運営者に上申し改善を促進するよう働きかけ、職員の意見等を反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の資格取得に向けた支援を行い、疲労やストレスの要因について気を配り、心身を休められるよう休憩場所や時間を設けている。また、職員同士の人間関係を把握したりするよう努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員の質の確保、向上に向けて事業所外で開催される研修になるべく多くの職員が受講できるようにしている。また、研修後はミーティングを行い、報告書を全職員が閲覧できるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>サービスの質を向上させていくため、管理者や職員が他の事業所の勉強会や研修に参加して意見交換や情報収集を行い、交流や連携を図り、ケアに活かしている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>サービスの利用について相談があったときは、利用者の不安や求めていることを理解するため、面接時や見学時に話を聞き、心身の状態や本人の思いに向き合い、職員全員が把握し、受け入れられるような関係作りに努めている。</p>		

自己評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	いつでも連絡が取れるようにしており、日頃から家族とのコミュニケーションを密に取っている。面会時には近況を伝え、家族が求めているものを理解し、不安や思いを受け止め支援している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービスの利用開始前に本人や家族の思い、状況を確認して出来る限り対応していくように努めている。早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応をしている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	支援する側、支援される側という意識を持たず、共に支え合える関係作りを築いている。人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、生活の技などを教わる場面もある。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は家族の思いに寄り添いながら、日頃の状態をこまめに報告するとともに、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを心がけている。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、断ち切らないように電話や手紙、はがきを使用してつながりを継続できるよう支援している。また、馴染みの美容院へ行ったり、お墓参りを続けておられる入居者もいる。	利用者の生活の背景となってきた馴染みの場所や知人友人関係を大切に、支援に努めている。知人・友人来訪時には感謝の意を述べ個室に案内し、お茶の接待をするなど再度の訪問を期待できるような接遇を心がけている	

自己評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個別に話を聴いたり、相談に乗ったり、利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となり、孤立してしまう状況を作らず、暮らしを楽しめるよう支援している。利用者同士の関係性について情報連携し、すべての職員が共有できるようにしている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者の事情等で利用が終了した後も相談窓口をつくり、関係性を大切にしてその後の支援に応じる姿勢を示している。また、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、注意が必要な事について情報提供し、細かい連携を心がけている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中での声かけやコミュニケーションから、思いや意思を把握出来るように努めている。また、意思疎通の困難な方には御家族や関係者から情報を得るようにしている。	利用者の個々の思いや意向の把握については、職員全員で関心を深め、情報を共有するように努めている。本人の聞き取りが困難な場合は、家族とも相談の上できるだけ思いを把握するように努めている。また意向や思いに沿った支援ができるように、職員間で話し合い実行するように努めている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	プライバシーに配慮しながら介護計画などを活用し、本人や家族の協力を得て、これまでの暮らしが出来るよう支援している。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	カンファレンスシートをいつでも見やすい場所に置いておき、利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、職員全員が把握出来るようにしている。		

自己評価	項目	自己評価	外部評価		
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人やご家族の思いや意見を聞き、意向を中心にアセスメントを行い、職員全員で見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。また、本人や家族の要望や変化に応じて、臨機応変に見直しを行っている。</p>	<p>介護計画の作成・モニタリングについてはケアマネージャーが主体となって担当しているが、その際に全職員が参加してチームとしての計画の作成・モニタリングを行っている。また支援の中で、職員からの情報を基に話し合いやアイデアを出し合って、現状に即したケアプランの見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>職員の気づきや利用者の状態変化は日々の申し送りで確認し、個別ファイルに記録している。また、センター方式を活用したり、重要事項については申し送りノートを活用し、職員間で共有しながらケアしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者や家族の状況や要望に引き合い、臨機応変に対応している。また、その方の状態や状況に応じて、同系列の老健や協力病院への転居が出来るなどの対応をしている。また、家族の方への食事の提供などの声かけも行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>利用者が安心して地域で暮らし続けられるよう、各機関等へ運営推進会議への参加を促し、意見交換できるよう支援している。町内のお店や理美容院を利用して関係を強化している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人、もしくは家族の希望する医療機関で受診している。医師の訪問診療、24時間受け入れ病院連携(福島生協病院)各医療機関関係者確保(外科・内科・皮膚科・歯科)により、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	<p>本人・家族等が希望する医療機関・医師に受診できるよう支援している。協力医療機関による医師の往診で健康管理を行い、体調変化がある際には、迅速に医師に連絡を行い対応できるような体制ができている。</p>	

自己評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションと契約しており、日常の健康面や医療面について相談、助言、対応を行ってもらっている。薬についての勉強会を開き、協働体制を築いている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、本人のストレスや負担を軽減させるよう努めている。また、家族や医療機関と相談しながらスムーズな退院につながるように、退院計画を本人・家族・スタッフで話し合い支援を行っている。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居と同時に家族・医師・職員等、チーム全体で話し合いを行っている。対応が可能なこと・困難なこと・不安なこと等を提携病院や協力医療機関と情報を交換しながら支援している。本人や家族の意向を踏まえ安心して納得した最期を迎えられるように随時意思確認をしながら取り組んでいる。	利用者入居時に家族・医師・職員が一緒に重度化や終末期のあり方について話し合いを行い、事業所としての統一見解は「看取り指針」として作成されており、その内容について了承を得ている。また、随時話し合いを行い、事業所と法人が一体となり支援するようにしている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所独自のマニュアルに基づき、当理事長林Dr・西野Dr・看護師の指示や指導の基、全職員が対応出来るように定期的に学ぶ機会を設け、緊急時に活かせる技術を身に付けるよう取り組んでいる。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルを作成し、消防署の協力を経て年2回、利用者と共に防災訓練を行っており、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練や点検を定期的に行っている。また、町内会を通じて火災などが起きたときのご協力を得ている。	消防署の協力を得て年2回避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方などの訓練を定期的に行っており、昼間については地域の協力体制を得られる関係を築いている。	

自己評価	項目	自己評価	外部評価		
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その人らしい尊厳のある姿を大切にし、援助の必要な時には本人の気持ちを考えて、さりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい声掛けをするように心がけている。また、個人情報の保護についても外部に漏れないように全職員が徹底している。	利用者一人ひとりの人格・人生観を尊重し、自分の親または人生の先輩として尊敬の念を持って利用者に接し支援している。個々のプライバシーや自尊心・人としての尊厳を傷つけないように、言葉かけや対応を工夫した支援を指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の希望や好みを把握し、意思表示が困難な場合でも表情や反応から思いを理解し、個々の能力に合わせた説明を行いながら、希望や願いを意図的に引き出せるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合で利用者の生活を合わせるのではなく、一人ひとりの体調やペースに配慮しながら、その日・その時の本人の気持ちを尊重して出来るだけ個性のある支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者の個性・希望・生活歴において好みや意向を尊重し、季節感や清潔感あるその人らしいおしゃれが出来るよう支援している。毎月の理美容で希望に合わせたカットや毛染めをしてもらえるよう連携を取っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	定期的にアンケートを取り、好みの食べ物・季節に合った食事を提供しており、利用者と一緒に食事を味わいながら楽しめるよう支援している。また、調理の下準備を手伝ってもらったり、食後には皿洗いなど後片付けを入居者と一緒に行っている。	基本的には管理栄養士により2週間分の献立が作成される為に、入居者の好みの食べ物には細かい対応は困難であるが、定期的な嗜好調査やアンケートにより利用者の好みを出来るだけ把握し対応している。また季節の食材を使用した献立を作るなど、利用者の食事を楽しませる工夫をしている。また、自分でできる事は自分で頂くよう、食事の準備や後片付けを職員と一緒に行って団樂の楽しさなどを感じられる支援を行っている。	

自己評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握し，その日の体調に合わせて主食をお粥にしたり，副食を食べやすく刻んだりと対応をしている。また，管理栄養士を中心に献立の栄養バランスに配慮している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	イソジンを使ってのうがいと歯磨き，義歯洗浄等の口腔の清潔保持は，日常的に支援している。また，利用者によってはガーゼやスポンジを使用して，自分で出来る方は声かけ見守りをし，出来ない方に関しては毎食後のケアを行い，嚥下障害による肺炎の防止に努めている。		
43	16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄が困難な要因を検討し，身体状況に応じて出来る所は見守りを行っている。自尊心に配慮し，さりげなくカバーして，極力本人が傷付かないように支援している。	日ごろの支援により利用者個々の排泄の時間・リズム等を把握し，自尊心や羞恥心を傷つけないよう，さりげなく声掛けを行い，排泄の失敗やおむつの使用を減らし，排泄が自立できるよう支援に努めている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の便秘の原因を探り，食事・排泄・活動状況等を見直し，家族とも相談しながら自然排便を促すよう働きかけている。また，毎日のラジオ体操と水分補給を徹底し，必要であれば個々の状態に合わせた使用量，頻度で下剤や浣腸なども検討している。		
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	職員のペースに合わせずm利用者の希望に合った曜日，時間帯で入浴を支援している。入浴前にはバイタルチェックをして，安全に楽しみの時間となるように健康面に努めている。不安や恐怖心を持たないように職員も一緒に入り，心情を察した配慮を行っている。また，異性に対して抵抗がある場合は，同性の職員が対応するようにしている。	入浴は利用者一人当たり2回/週を基本とされているが，入浴日・時間等は本人の意志を尊重し，本人の希望に合わせている。入浴前にはその日の個々の健康状態を把握し，血圧測定による安全を確認してくつろいだ入浴となるような配慮がなされている。入浴時に伴う恐怖心や負担感の軽減に配慮することは勿論であるが，特に羞恥心に配慮し同性の職員が対応するよう支援している。	

自己評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	今までの生活習慣等を検討しながら、日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望等も考慮して、ゆっくり休息や睡眠が取れるように支援している。		
47	○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	理事長、主治医、看護師による薬の勉強会を行い副作用、用法、用量について理解し、職員が個々の内服薬を把握出来るようにファイルを作成している。また、服薬時には本人に手渡し、きちんと服用出来ているか確認を行っている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの生活歴を把握し、潜在している記憶や出来る力を最大限に活かして、自分らしく暮らせるように支援している。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出が困難と決め付けず、重度の方でも外出出来るように、介護タクシーを利用したり、ご家族の方にも協力して頂き、希望に沿った支援を行っている。また、季節の行事や外出希望者には、職員が同行して支援を行っている。	日常的な散歩や買い物などは、利用者の希望に応じて職員が同行し支援しているが、外食や馴染みの店への買い物外出等の希望は家族に対応をお願いしている。その他花見等行事のための外出は事業所として計画し、入居者全員で季節感を味わい外出を楽しめる工夫をしている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の安心や満足に向けて、少額でも所持金を持って頂くように家族と相談しながら支援している。また、外出時には自分の財布からお金を出すことで社会性の維持につなげている。		

自己評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	日常の手紙、暑中見舞を出すための支援を行っており、プライバシーに配慮しながら希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように支援している。		
52	19 ○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関は季節に合った花や飾りを取り入れ、入りやすい雰囲気になっている。リビングは風通しが良く、山や緑が見えて季節感を感しやすい。台所は利用者にとって安全に使用できるようになっており、トイレは車椅子でも出入りしやすい大きさになっている。照明類は落ち着いたきのある空間作りに配慮している。	屋内は掃除が行き届き落ち着いたきのある空間となっており、共用の場として快適性がある。居間兼食堂は室内の過度の装飾も無く、戸外の山や自然が遠望できて季節感が味わえる。トイレや調理室の臭気・光・温度なども特に不快を感じる物がなく、また各室の扉が全て個室と同じ造りとなっていて統一感があり、快適に過ごす事が出来るように配慮がされている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で一人になれる空間とフロアで他の入居者と自由に団欒出来るようソファや椅子を置き、気の合う入居者同士がくつろげる空間を設けている。		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が落ち着いて過ごせるように、入居の際は新しい品物をそろえて頂くのではなく、使い慣れた物や馴染みの物を持ち込んで頂くよう説明をしている。本人や家族と相談しながらその人らしく居心地の良い居室作りを行っている。	入居時から環境の変化に戸惑わないよう利用者個人の好みや要望に応じて個室の使用については、自由に今まで使い慣れた物や馴染みの家具などの持込が出来ることを説明し、家族からも理解を得ている。中には仏壇まで持ち込まれる利用者もいれば、ほとんど備え付けのベッドやテレビだけで過ごしておられる方も居られる。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手摺りや階段に滑り止め等を設置しおり、利用者一人ひとりの身体状態に合わせて危険の防止や自分の力を活かして動けるように物の配置に配慮している。また、状態が変わり混乱が生じた時は職員で話し合い、不安や混乱材料を取り除き自立支援につなげている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○ ●ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ●毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ●利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ●ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○ ●利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ●ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ●ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ●ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	●ほほ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ●少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	●ほほ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	●ほほ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	●ほほ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム若紫の家

作成日 平成 23 年 10 月24 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議で部外者の参加がなく、固定的参加者となっている。	行政担当者や地域の代表者の参加を促し、有意義な会議を持てるようにする。	行政担当者や地域の代表者の方にも参加して頂けるよう、日程の調整を行う。	3ヶ月
2	35	夜間帯を想定した避難訓練が行えていない。	緊急時の対応の強化	消防隊員の方を招いて夜間を想定した避難訓練の実施	3ヶ月
3	14	職員の外部研修への参加が少ない	内部の研修だけでなく、外部研修にも積極的に参加をする	他の事業所と情報を共有し合い、研修の案内がある場合は管理者だけでなく職員にも参加を促す	3ヶ月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。